



地域生活を支える精神科医療

精神科デイケアは、主に精神科病院や精神科クリニックなどで行われる通所型リハビリテーションです。精神障害のため生活のしづらさを抱えている患者さんが、地域の一員として安心して日常生活を送り社会復帰することを目的に、通常の外来治療では十分に提供できない医学的・心理社会的治療を包括的に行います。



おか・たくろう 岡山大卒、同大学院修了。同大病院、慈圭病院、山陽病院、下同病院(高知市)を経て、2008年から慈圭病院に勤務。18年から医局長、19年から現職。精神保健指定医、精神保健判定医、日本精神神経学会認定専門医・指導医、日本臨床精神神経学会認定専門医、日本医師会認定産業医。

④ 精神科デイケアの紹介

慈圭病院医局長兼診療部長 岡 沢郎



慈圭病院のデイケア棟



デイケアにはゲーム形式のプログラムも取り入れている

患者さんは一定時間をデイケアで過ごし、それぞれの回復過程に応じた目標を立ててプログラム活動に参加します。目標達成には利用者の生活空間を

より安全に広げていくことが重要で、スタッフは患者さんの困りごとだけでなく、その人の持つ強みに注目して援助します。

精神科デイケアの効果には、再発・再入院の防止、対人交流技能の改善、安定した生活リズム、疾病や生活に関する知識や知恵の獲得、組織に属することで得られる安心感、自己効力感の獲得、障害の受容などが挙げられます。慈圭病院のデイケアは1974(昭和49年)に当時の開放病棟内に発足し、80(同55)年8月1日に当時の厚生省の認可を得ました。現在163名の患者さんが在籍し、1日の利用者数は約50名です。スタッフは医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士が担当します。服薬管理、金銭管理、対人関係などの課題に対してスタッフが丁寧に関わり解決策を一緒に考え、問題解決に向けたプログラムを実施し、必要に応じて患者さんの自宅へ訪問し生活全般に対する支援を行います。

当院デイケアの就労移行支援プログラムは、「患者さんにとって適切な時期を待って支援しよう」という思いを込めてW.A.I.Tの愛称で呼ばれ、グループワークや個別指導を行います。さらにパソコンを用いたゲーム形式のトレーニングと言語セッション(NEAR)を組み合わせたものです。認知機能には記憶力や集中力、問題解決能力、処理速度、作業記憶、流ちょう性が含まれ、患者さんは認知機能の低下のため日常生活でさまざまな支障を来すためリハビリが必要です。

このプログラムの過去5年間の成果は、累計登録者64名、平均年齢37・5歳、登録者の診断名は自閉スペクトラム症、統合失調症、気分障害などさまざま、卒業者は41名で一般就労、障害者枠就労、就労継続支援A・B型事業所につながっています。

わが国では患者さんの生活を支えるために地域包括ケアシステムの構築を進めています。その中で精神科デイケアは医療と、患者さんを支えるさまざまな社会資源との連携の要として重要な役割を果たしており、これからも患者さんが障害を持ちながらも、そのらしい生活を送れるために切れ目のない支援を続けたいです。

慈圭病院(086-262-1191)